

授業改善書

科目名	経営学総論
担当者	大江 清一

授業の概要

本講義では経営学の基礎を修得する。そのためにはまず組織論の基礎を修得し、企業経営、経営戦略、企業倫理、企業の国際化の順で、経営学で取り上げる領域の大半をカバーする。

経営学は生きた学問として身につけられなければならない。経営学は日々進歩しているため、基礎講座ではあるが、本講義では経営学の最新テーマや時事的な話題を可能な限り多く盛り込む。

学んだ知識をもとに日本経済新聞や経営関連誌を自主的に読み進めることは、経営学を効果的に修得する秘訣であり、講師は強くこれを奨励する。

授業の問題点

(1)春期に実施された「授業アンケート集計結果」を踏まえた授業の問題点は、大きく、①講義中の規律をより厳格にたただすこと(遅刻の削減、スマホ操作の禁止等)、②双方向の授業運営を心掛けることの2点である。

(2)アンケート中には、「大変楽しかったです」というコメントがあり、それ自体は講師としては喜ばしい。しかし、いかなる意味で楽しかったのかが問題となる。

(3)もし、経営実務事例を交えた講義がダイナミックであるがゆえに楽しかったのであれば、引き続き実務レベルの内容を豊富に盛り込んだ講義を行うことが望ましいが、各講義で用意したレジメが詳細であり、ノートをとる必要がなくなるがゆえに、「楽であった」という意味で楽しかったのであれば、もう少し学生に負荷をかける必要がある。

授業改善の課題・方策

【授業内容の改善】

(1)講義内容に対する著しい不満は見られないので、今後も引き続きレジメを用いて、講義中で重要ポイントを強調する方式で講義を進める。また、実務事例は従来以上に豊富に盛り込む。

(2)ただし、学生が真の意味で学ぶことを「楽しかった」と感じているのかどうかを講義の都度確認する意味で、アランダムに学生を指名し、主要なポイントについて質問する方式を導入する。その反応を考慮して講義内容を工夫する。例えば、質問への回答内容から、基本事項が理解できていないと判断される場合は、レジメ中の強調ポイントを基本的事項にシフトする等を実行する。

【規律の厳格化】

(1)履修者が90名であると、教室の後方まで注意が行き届かない場合がある。したがって、スマホ操作に限らず、私語を交わしている学生を発見した場合は、指名して質問に答えさせるなどして牽制を頻繁に行う、

(2)遅刻の削減に関しては、出席票を配付・回収するタイミングを速めるなどして対処する。

その他

特にありません。

授業改善書

科目名	経営管理論
担当者	大江 清一

授業の概要

本講義では経営管理論の基礎を修得する。そのためにはまず経営管理の基礎を修得し、経営戦略と経営管理、経営管理の体制、経営管理の対象、国際化と経営管理の順で、経営管理論で取り上げる領域の大半をカバーする。

経営管理論は生きた学問として身につけられなければならない。経営管理手法は日々進歩しているため、基礎講座ではあるが、本講義では経営管理論の最新テーマや時事的な話題を可能な限り多く盛り込む。

学んだ知識をもとに日本経済新聞や経営関連誌を自主的に読み進めることは、経営管理論を効果的に修得する秘訣であり、講師は強くこれを奨励する。

授業の問題点

(1)春期に実施された「授業アンケート集計結果」を踏まえた授業の問題点は、大きく、①受講者の発言機会を増やすこと、②配付レジメの記載方法に一工夫加えることの2点である。

(2)経営管理論の履修生は2年次以上であるので、経営学の基礎知識が修得されているという前提で若干専門性の高い内容を講義に盛り込んだ感があった。「レジメの空欄に書かせる等の工夫をすれば、学生が眠くならないと思います」という趣旨の意見は、専門性の高い内容を淡々と講義しすぎた結果出たものと考えられる。

授業改善の課題・方策

【講義内容のレベル】

(1)経営管理論は基礎からしっかり学ぶことが重要であり、社会人となった場合に最も有用な内容を含む分野であると考えられる。したがって、講義の専門性レベルを著しく下げることが回避される。しかし、講師が有用と考える内容が受講者に十分理解されなければ意味がないため、レジメの構成に図表をより多く取り入れる等、アイキャッチを含めて教材のプレゼンテーションに改善を加える。

【講義運営】

(1)講義出席者が20名以下の場合、各講義で一人当たり1回発言するよう質問を投げかける。
(2)経営管理実務の現場を想定して、学生に仮想経営者になってもらい、ケーススタディ的な質問を行う。この場合は正解・不正解はないので、学生は余分な緊張感なしに自由に発言ができると思われる。

その他

特にありません。